

# 角田一郎先生旧蔵資料 仮目録六

—学会及び研究会資料・バインダー・ファイル・スクラップブック・ノート等—

森 谷 裕美子

第二十四号以降の紀要に引き続き、近松研究所に寄贈された角田一郎先生の旧蔵資料の中から、仮目録の作成を試みた。今号では、研究会及び学会等における研究発表の配布資料、研究会及び学会関係資料、バインダー、ファイル、スクラップブック、ノート等についてまとめてみた。

ジャンルは次のように分けた。

- 研究会及び学会等における研究発表、講演の配布資料
- 研究会及び学会関係資料
- バインダー
- ファイル
- スクラップブック（新聞切抜き以外のもの）
- ノート

記載項目はジャンルにより、多少異なる。

- 研究会及び学会における研究発表の配布資料（角田一郎先生、以下は発表者の五十音順に配列）

1 発表者名

- 2 発表題目
  - 3 発表した学会、研究会等の名称
  - 4 年月
  - 5 備考
- ・ 配列は、角田一郎先生の配布資料をまず最初に掲げ、以下発表者の名前の姓の五十音順とした。発表者が不明の場合は、この項目の最後にまとめて記した。敬称は省略させて頂いた。
- ・ 同じ発表者の資料が複数ある場合は、年代の古い順に記し、2番目以降の資料の上に「・」を付した。
- ・ 年代のわからない場合は、適宜配列した。
- ・ 複数の発表者のレジュメをまとめた冊子等の資料は、研究会及び学会名の五十音順に配列した。
- ・ 発表題目が不明の場合は「(不明)」とした。
- ・ 発表を行った学会名等が不明な場合は、学会名不明、とした。
- ・ 発表を行った年月が不明な場合は「年月不明」とした。
- ・ 研究発表の配布資料のようにも考えられるが、判断がつかかぬ場合には、備考に「発表資料カ」と記した。
- ・ 備考に関しては※の下に記した。これは他の項目についても同様

である。

・発表者不明の資料は、研究会や学会名がわかれば、その五十音順とし、年月の古い順に配列した。発表者名も学会名も不明の場合は、年月の古い順に配列した。発表者名、学会名、年月がいずれも不明のものは、順不同に配列した。

#### ●研究会及び学会関係資料

##### 1 研究会及び学会の名称

2 資料に付されている題名や見出し

3 年月

4 備考

・この項の資料については、配布物、または郵送されたものが多い。配列は研究会及び学会名の名称の五十音順とした。各研究会及び学会の項の中では、およそ年代順に配列した。

・学会及び研究会の名称ではないが、早稲田大学内の学会、学科関係の資料については、「早稲田大学関係」として、最後に置いた。

・資料の見出しが見当たらない場合は、「( )」とし、( )内に伝達内容を記したものがあある。また、電報、葉書等とのみ掲げ、備考に内容を記したものもある。

・年月が不明のものは「年月不明」とし、各研究会及び学会の各項の最後に配列した。

#### ●バインダー

1 バインダーに記されている題名

2 備考

・配列は、バインダーに記されている題名の五十音順とした。

・バインダーに何も題されていない場合は「(題名不明)」、また題名が記されていても判読できない場合は「(題名 判読不能)」とし、備考に内容を記した。

・備考には、バインダーの内容をなるべく記すようにしたが、記しきれなかったものもある。

#### ●ファイル

1 ファイルに付されている題名

2 備考

・この項目については、特定のテーマに基づいて、コピーや自筆資料等、様々な資料が一緒にまとめられているものを中心に掲載した。例えば、ある特定の作品の原本の複写、あるいは特定の筆者の論文抜刷やコピーのみをまとめてあるようなファイルは、今回除外した。

・配列は、掲げられている題名の五十音順とした。ただし、題名の上にアルファベットや数字、冊数が付されている場合は、題名の方を優先して配列したものがあある。

・角田先生の自筆資料、メモについては、自筆資料、と記した。

・題名が不明な場合は最後に並べた。バインダーの項と同様に「(題名不明)」 「(題名 判読不能)」とし、備考に内容について示すようにした。

・備考には、ファイルの内容をなるべく示すことを目指したが、示しきれなかったものもある。

●スクラップブック

1スクラップブックに記されている題名

2備考

新聞、写真、複写物以外のものを貼ってあるスクラップブックについて、今回採録した。資料の複写物や写真等を貼ったものに関しては、次号以降に掲載する予定である。

●ノート

1ノートに付されている題名

2備考

・ノートも多種多様な内容を含んでいる。大まかではあるが、以下のように分類してみた。

・浄瑠璃に関するもの、歌舞伎に関するもの、謡曲に関するもの、地方芸能・調査に関するもの、日本文学に関するもの、外国文学に関するもの、研究会関係、講義に関するもの、科研費関係、日記・雑記など、その他

配列も、この順とした。

・各分類の中ではおよそ、ノートの題名の五十音順に並べた。

・題名がわからない場合は「(題名不明)」とし、各分類の最後に配列した。

・ただし「科研費関係」「日記・雑記など」「その他」については、おおよそ年代順に並べた。年代がわからないものについては、年代順に並べてあるものの後に記した。

・また、明らかに同一のテーマで、続いていると判断される場合は、五十音順ではなく、まとめて記したことがある。

例 人間国宝竹本津大夫師芸話

人間国宝竹本津大夫芸話

竹本津大夫芸話

等

・ノートの使用頁が非常に少ない場合は、備考に「約2頁使用」等、記したことがある。

本仮目録に採録した資料は、多岐にわたる。

●研究会及び学会等における研究発表、講演の配布資料

●研究会及び学会関係資料

・に関しては、印刷され(謄写版やコピーも含む)たものが多く、大方は個人ではなく、多数の人に向けての配布物である。一方、

●バインダー

●ファイル

●スクラップブック

●ノート

・については角田先生の個人的な研究資料であり、ことに、バインダーとノートについては、基本的に角田先生の自筆資料を中心としたものである。

今回の仮目録作成にあたっては、以下の通りとした。

・旧字体については、通行の字体に改めたものがある。

・漢数字をアラビア数字に変えたところがある。

・資料に付されている『』の表記を「」に替えたり、( )を省いたところがある。

- ・元号には、適宜西暦を付した。
- ・発表者等が複数である場合には／で区切り、示した。
- ・敬称は原則的に省略した。
- ・今までの仮目録と重複している資料については、その旨を備考に記した。

今後、学会、研究会の記録等を調べることにより、発表者、発表した学会、研究会、発表した年月等を少しでも明らかにし、本仮目録を補っていきたいと考えている。

また、個人情報を含む資料は、原則として公開できない。閲覧を希望される方は、事前に近松研究所にお問い合わせ頂きたい。そして他機関及び個人の所蔵資料の複写は原則として公開できない。

本仮目録作成にあたり、資料を寄贈された角田あい子様と、多大な便宜をおはからい頂きました乾安代先生に深謝申しあげます。

## ●研究会及び学会等における研究発表、講演の配布資料

角田一郎

- ・「並木宗輔伝の新資料（摘要）」  
日本近世文学会 昭和30年（1955）5月
- ・「扱も其後」資料  
日本近世文学会 昭和32年（1957）5月

・「西宮の傀儡師と百太夫画像神札」

日本演劇学会 昭和37年（1962）5月

・「初期浄瑠璃の段内形式句―三重との関係について」

日本近世文学会 昭和37年（1962）6月

※発表要旨あり。

・「農山漁村の近世劇舞台実地調査概況（報告原稿）」

日本演劇学会 昭和44年（1969）5月

・「別れ 三重 ゆく水の」

龍谷大学国文学会文学講演会 昭和47年（1972）11月

※チラシ。退任講演。

・「『出世景清』の曲節と詞章の関係―「スエテ」を中心に―」

日本近世文学会 昭和49年（1974）11月

・「近松浄瑠璃の操りと語り」

芸能史研究会 昭和50年（1975）6月

・「知多に遺存する特殊三人遣三番双山車人形」演劇研究会 昭和53年（1978）6月

和53年（1978）6月

・「浄瑠璃道行の一考察―近松作「世継曾我」の道行について―」

日本歌謡学会 昭和58年（1983）5月

・「宮島芝居番付目録（未定稿）」（付）三都総役者見立番付および給金位定番付所在一覧表」

日本近世文学会 昭和53年（1978）7月

※「目録」は無記名。「付」の方にのみ「角田一郎調査」とあり。表の作成者として、角田先生を含め四名の名が記されている。

・「九州大学所蔵古浄瑠璃正本四種紹介」

演劇研究会 昭和54年(1979) 7月

・「土佐浄瑠璃の曲節―義太夫節近松正本との比較をとおして―」

義太夫研究会 平成3年(1991) 6月

・「近松浄瑠璃の演劇性―舞台形式・人形形式を中心に―」

学会名 年月不明

・「ギンのツボ(勘どころ)に関する一考察―播磨節の「下ぎん」

に関連して―」

※角田先生の配布資料カ。

・「第二 語り―記譜法から見た義太夫節の特性―」

※角田先生の配布資料カ。

・「三たんめ」

学会名不明 年月不明

※十二段草子関係カ。配布資料カ。

・「平家物語重衡海道下の本文成立について(備要)」

学会名不明 年月不明

青江舜二郎「花道私考」

日本演劇学会 昭和37年(1962) 5月

青木繁「化政期大坂劇壇の特徴―中ウ芝居の台頭―」

日本演劇学会 昭和60年(1985) 秋季

赤井達郎「絵解きの周辺」

芸能史研究会 平成3年(1991) 12月

赤間亮「諸芸評判 金の輝―その資料的問題」

日本近世文学会 昭和61年(1986) 6月

秋本鈴史「金平浄瑠璃における連作について―登場人物名を手掛り

に―」

日本演劇学会 昭和57年(1982) 3月

※裏面に「演技論の東西 山崎正和氏」他のメモあり。

・「題名不明」

三浦家文書の会 昭和58年(1983) 12月カ

※明暦4年、万治3年、万治4年について記す。

・「三浦家文書の会」第1回 訂正・追加」

三浦家文書の会 昭和58年(1983) 12月以降

※三浦家文書の会、第1回は昭和58年12月。

・「(題名不明)」

三浦家文書の会 年月不明

※秋本氏担当は昭和58年(1983) 12月か昭和59年(1984) 3月。「寛

文三年四月(二十二歳)」

・「享保6年閏7月10日の豊竹座―越中の若き歌人の観た舞台―」

演劇研究会 昭和62年(1987) 6月

・「(題名不明)」

※三浦家文書の会カ。資料「寛文三年四月」。

秋本吉徳「説経節」解説 参考資料」

日本歌謡学会 清泉女子大学・土曜自由大学 年月不明

※日本歌謡学会春季大会。

畦地慶司「日本の胡弓の調弦における三下りの意味について」の

研究」東洋音楽学会 平成3年10月

阿部千栄子「貞享2年1月12日から同年2月4日までの芸能記録」

三浦家文書の会 昭和59年(1984) 3月

※題名は例会記録による。

・〔題名不明〕

三浦家文書の会 昭和59年(1984) 頃カ月不明

・〔梵天国について〕

三浦家文書の会 年月不明

※阿部千栄子氏の配布資料カ。

・〔梵天国の分析〕

三浦家文書の会 年月不明

※阿部千栄子氏の配布資料カ。

天野文雄「変遷研究をめぐって」

芸能史研究会大会 平成元年(1989) 6月

※共同研究「翁猿楽研究の現況」。

・〔近世伊勢神楽資料〕

芸能史研究会カ 平成4(1992) 6月カ

※シンポジウム「諸国の猿楽座の伝流」資料カ。

五十嵐力「平安朝文学に於ける継承、開展、創始及び完成(資料)」

日本女子高等学校院 夏期講習会 昭和14(1939)年7月

井口淳子「中国の語り物音楽におけるテキストの伝承と「口頭創作」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

井口洋「堀川波鼓」について」

演劇研究会 昭和51年(1976) 7月

石上敏「万象亭森島中良について」

日本近世文学会 昭和61年(1986) 6月

板谷徹「竹田からくりの二三の問題―小坊主の踊と変化物―」

学会名不明 昭和51年(1976) 11月

井上勝志「当流小栗判官」の上演年代をめぐって」

演劇研究会 平成5年(1993) 5月

井野辺潔「「段切り」の構造」

東洋音楽学会 昭和49年(1974) 10月

井野辺潔編「復曲演奏「北条時頼記」―5段目・女鉢の木」

東洋音楽学会 公開講演会 昭和59年(1984) 10月

※「資料2」と記す。

岩田宗一「六時礼賛声明の旋律法とその系統」

東洋音楽学会 昭和50年(1975) 11月

内山美樹子「奥州秀衡有鬚塚―淡路の浄瑠璃と豊竹座―」学会・研

究会名不明 昭和46年(1971) 10月

・「戯曲形成前夜の「とはずがたり」

芸能史研究会 平成4年(1992) 6月

※補足資料を付す。

内山美樹子／和田修「現代に生きる古浄瑠璃」

楽劇学会 平成6年(1994) 11月

大倉直人「「双面」の所作事について」

早稲田大学大学院研究発表会 昭和63年(1988) 12月

大塚拜子「三味線音楽における「うた」と「語り」

東洋音楽学会大会 昭和63年(1988) 10月

・「指使いが具現する三味線の「色音」

東洋音楽学会関西支部例会 平成元年(1989) 4月

大橋正叔「(題名不明)」

演劇研究会 昭和49年(1974) 9月

・「資料二題」

演劇研究会 昭和51年(1976) 6月

・「日本西王母」をめぐる問題」

演劇研究会 年月不明

・「咄の種 近松の七不思議」

演劇研究会 平成5年(1993) 1月

・「竹本一流懐中本について」

日本近世文学会 年月不明

奥村浩一「中米グアテマラ共和国に於ける「マリンバ」の歴史」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

表章「能の地謡をめぐる諸問題」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 12月

A・ガーストル「悲劇 比較論の立場から」

義太夫研究会 平成元年(1989) 5月

加賀佳子「平家物語関係発表資料」

平成元年(1989) 6月

※大学院演習授業の配布資料カ。「義経千本桜」関連カ。

・「しのだづま成立考—3段目を中心として、常陸信太の仲丸童

子と、和泉信太の安倍の童子—」

芸能史研究会 平成2年(1990) 6月

※加賀氏の書簡と原稿を付す。

加賀谷真子「稗酒と田楽の関係」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 6月

香川和子「近松門左衛門の趣向について 時代浄瑠璃の死の趣向を

通して」

演劇研究会 昭和51年(1976) 4月

垣内幸夫「彦六系の演奏形式について—楼門の段を中心に—」

義太夫研究会 昭和62年(1987) 6月

景山正隆「下座音楽の1資料と書入草稿の台帳 資料1」

※学会配布資料カ。

籠谷真智子「親鸞謡曲の系譜(史料)」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 6月

加藤敦子「安永・天明期の江戸劇壇」

日本近世文学会 平成4年(1992) 6月

河合眞澄「宇和島伊達藩記録類に見る芸能資料(享保19年より延享

3年まで)」

演劇研究会 昭和61年(1986) 3月

・「(題名不明)」

演劇研究会 年月不明

川端咲子「古浄瑠璃「七人びくに」とその周辺」

演劇研究会 平成5年(1993) 4月

姜漢永「パンソリに就いて」

演劇研究会 昭和52年(1977) 9月

沓名定カ「古浄瑠璃の道行について」

演劇研究会 昭和51年(1976) 11月カ

芸能史研究会大会レジュメ

京都女子大学 平成元年(1989) 6月

※第26回。冊子。

小池正胤「十返舎一九嘶本作品年表」

日本近世文学会 昭和39年(1964) 秋季

小谷成子「玉黒髪七人化粧」について—絵巻を中心に—」

演劇研究会 昭和59年(1984) 4月

・「初期上方子供絵本集」について―「いも上るり」「軍舞」「ど  
うけあつくし」を中心に―

日本近世文学会 昭和59年(1984) 6月

小林幸男／小林公江「今日のアイヌ伝統音楽の音階」

東洋音楽学会大会 昭和63年(1988) 10月

小都勇二「だんじり屋台の研究」

史談会 昭和21年(1946) 4月<sup>カ</sup>

※「史談会テキスト 二一、四、一九 発表者 小都勇二」と  
あり。

小日向英俊「16・17世紀のインド音楽理論書に見られるルドウラ・

ヴィーナについて―その調弦法を中心に―

東洋音楽学会大会 昭和63年(1988) 10月

ロレンス・コムンズ「題名不明(曾我ものについて)」

芸能史研究会例会 昭和58年(1983) 月不明

小山一成「説経節『小栗判官』遺跡・遺物・伝説関係資料」

仏教文学会 昭和59年(1984) 6月

権藤芳一「丸本歌舞伎の演出」

芸能史研究会 昭和57年(1982) 12月

阪口弘之「元禄期淡路操芝居の地方興行―「芝居根元記」をめぐつ

て―」

演劇研究会 昭和63年(1988) 9月

・「説経・古浄瑠璃と絵解き―語りと絵―」

演劇研究会 昭和63年(1988) 12月

・「きそ物がたり」とその周辺―金平浄瑠璃のはじまり―

演劇研究会 平成元年(1989) 12月

坂田泉「花道一考」

日本建築学会大会学術講演梗概集(東北) 昭和48年(1973) 10

月

沙加戸弘「声明の三重」

学会名不明 昭和55年(1980) 11月

・「他力本願記」の性格―主人公をめぐって―

学会名不明 年月不明

坂本清恵「初期義太夫節の節付けとアクセント」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 6月

坂本麻美子「御伽草子」にみる中世の王朝憧憬と雅楽」

東洋音楽学会大会 昭和63年(1988) 10月

桜井恵 題不明

学会名不明 年月不明

※市川団十郎07関連か。

笹原亮二「芸能を巡るもうひとつの近代―郷土舞踊と民謡の会の時

代―」

芸能史研究会 平成4年(1992) 6月

佐藤悟「役者似顔絵と江戸後期小説」

日本近世文学会 平成4年(1992) 6月

澤井万七美「人形浄瑠璃における太夫の役意識」

演劇研究会 平成4年(1992) 5月

重野佐喜子「近世歌舞伎の劇場構造とその演出」

早稲田大学大学院研究発表会 昭和63年(1988) 12月



信多純一「題名不明」

日本近世文学会 昭和55年(1980) 6月

・「出世景清と牛若千人切について」

芸能史研究会 平成9年(1997) 8月以前

・「宇和島藩 日記 芸能記事抄」

演劇研究会 昭和60年(1985) 4月

・「馬琴「里見八犬伝」の一大秘鍵」

日本近世文学会 昭和63年(1988) 6月

・「新出段物集のことども」

演劇研究会 平成4年(1992) 1月

リツコシマ「詞」の節付と会話文の問題」

演劇研究会 昭和55年(1980) 3月

志村哲「史料としての楽器―木幡吹月尺八コレクションの場合―」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

菅原ゆみこ「箏曲のリズム構造―歌のついた部分の拍子構造―」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

杉野橋太郎「江戸系三人づかい古浄瑠璃人形の「偃菡首(えんばか

しら)」について」

日本演劇学会 昭和42年(1967) 5月、同年12月

※5月は早大で、12月は京博で発表カ。次項と共通する内容あり。

・「江戸系三人遣古浄瑠璃の偃菡首(えんば・かしら)について」

学会名 年月不明

須田悦生「題名不明」

芸能史研究会 平成4年(1992) 6月

※シンポジウム「諸国の猿楽座の伝流」資料。

諏訪春雄「研究発表女舞考引用資料」

学会名不明 年月不明

※配布資料の一部カ。

高岡結貴「中部ジャワの村落におけるガムランの学習過程」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

高村正一「地方神社拝殿の機能について―とくに芸能空間として―

岐阜県郡上郡北部の場合―」

芸能史研究会 昭和42年(1967) 5月

武井協三「古今役者物語」について」

演劇研究会 昭和53年(1978) 7月

・「題名不明」

演劇研究会 昭和54年(1979) 7月

※「心中鬼門角」「袂の白しほり」「けいせい仏の原」「天鼓」等の比較。『シンポジウム近松』の講読資料カ。

・「浄瑠璃番付の異版について」

演劇研究会 昭和54年(1979) 10月

・「延宝六年中の芸能記録」

三浦家文書の会 昭和58年(1983) 12月

※題名は例会記録による。

・「ボストン美術館蔵 江戸芝居町屏風について」

芸能史研究会 昭和60年(1985) 6月

・「右近源左衛門について」

演劇研究会 昭和61年(1986) 12月

・「津軽家文書「弘前藩庁日記」弘前市立図書館蔵」

芸能史研究会 平成5年(1993)12月

・「弘前市立図書館蔵津軽家文書「弘前藩庁日記」(江戸日記)抄」

演劇研究会 平成8年(1996)1月

・「済美録」芸能記録の紹介」

学会・研究会名不明 年月不明

・「延宝六年中の芸能記録」

三浦家文書の会 年月不明

※題名は例会記録による。武井協三氏配布資料カ。

武田虎雄編「萩原朔太郎研究書誌稿」

※学会配布資料カ。

田尻陽一「スペイン黄金世紀の座組契約—1614年のクララモンテ一座

をめぐって—」

演劇学会 年月不明

※発表要旨。

田中悠美子「(一)中節の旋律型(機能別分類)」

義太夫研究会カ 年月不明

※題名不明。一頁目に「一中節の旋律型」とあり。

棚橋正博「南柚笑楚満人の初期作品について」

日本近世文学会 昭和60年(1985)

※春季大会。

谷垣内和子「近世文献中の音楽記事の本文批判について—「松平大

和守日記」に見られる盲人の音楽を中心として」

※学会配布資料カ。

次田潤「万葉歌人の自然観」

日本女子高等学校院 夏期講習会 昭和14年(1939)7月

土田衛「(元禄元年中の芸能記事)」

三浦家文書の会 昭和59年(1984)1月

※題名は例会案内葉書による。土田衛氏配布資料カ。

・「(題名不明)」

三浦家文書の会 昭和59年(1984)1月カ

※「元禄二年己巳 四十又八歳」。土田衛氏配布資料カ。

・「千束屋の台帳とその周辺」

演劇研究会 昭和60年(1985)3月

・「(題名不明)」

三浦家文書の会 年月不明

※「貞享五年戊辰」。土田衛氏配布資料カ。

・「元禄3年庚午 坎集 肆拾玖歳」

三浦家文書の会 年月不明

※角田先生の書込に「土田氏」とあり。

・「堀川波鼓」

演劇研究会カ 年月不明

※「土田記」とあり。

常吉幸子「平仮名本「因果物語」における虚構について」

日本近世文学会 昭和61年(1986)6月

坪野和子「Kata kara 灌頂儀礼における音楽的要素について」

東洋音楽学会 平成3年(1991)10月

土井順一「近松門左衛門次弟岡本一抱」

演劇研究会 昭和49年(1974)11月

東條操「万葉集と上代方言」

日本女子高等学校院 夏期講習会 昭和14(1939)年7月

- 時田アリソン「清元の語りもの性」  
東洋音楽学会大会 昭和63年(1988) 10月  
時松孝文「古浄瑠璃正本の句切点について」  
演劇研究会 昭和59年(1984) 9月  
・『出世景清』の句切点について」  
演劇研究会 昭和60年(1985) 7月  
※発表要旨、書簡、角田先生のメモを付す。  
・「古典主義浄瑠璃」の再検討―延宝期加賀掾の曲を中心に―  
演劇研究会 昭和62年(1987) 8月  
・「延宝期加賀掾の作劇法―野郎歌舞伎との関係を中心に―」  
演劇研究会 昭和63年(1988) 3月  
・「けいせい反魂香」  
演劇研究会 平成元年(1989) 12月  
※講読。  
・「家乗」元禄9年 秋七月朔日」  
三浦家文書の会 年月不明  
徳江元正「題目立」3行メモ」  
芸能史研究会 昭和48年(1973) 10月  
鳥越文蔵「(題名不明)」  
演劇研究会配布資料 昭和60年(1985) 11月  
豊田八千代「真間の手兒奈」  
日本女子高等学校院 夏期講習会 昭和14(1939)年7月  
※題名は角田先生のノートの表記による。  
永井彰子「福岡藩領におけるおどり・芝居と寺中たち」  
演劇研究会 平成2年(1990) 8月  
永池健二「王城」の内と外―今様・靈験所歌に見る空間意識」  
日本歌謡学会 昭和60年(1985) 10月  
中川光利「日本永代蔵 冒頭文の解釈をめぐる問題点」  
高野山大学国文学会 昭和48年(1973) 7月  
・「西鶴諸国はなし」考」  
高野山大学国文学会研究発表会 昭和60年(1985) 7月  
長沢真希子「元禄歌舞伎におけるからくり―元禄14年の森田座にみる―」  
日本近世文学会 平成5年(1993) 6月  
長友千代治／西島孜哉「海音の狂歌・俳諧・浮世草子」  
演劇研究会 昭和53年(1978) 5月  
中村茂子「民俗芸能の棒」  
東京国立文化財研究所 夏期学術講座 平成8年(1996) 7月  
中村保雄カ「翁面研究をめぐって」  
芸能史研究会大会 平成元年(1989) 6月  
※共同研究「翁猿楽研究の現況」。  
夏見知章「近世文学と紙子―紙子史の研究―」発表資料」  
日本近世文学会 昭和39年(1964) 11月  
※冊子。  
西岡直樹「三浦家文書「年中日記」の芸能資料について」  
日本演劇学会 昭和60年(1985) 11月  
西瀬英紀「能の翁と民俗芸能の翁」  
芸能史研究会大会 平成元年(1989) 6月  
※共同研究「翁猿楽研究の現況」。

朴賛基「朝鮮通信使と「唐人殺し」——浄瑠璃『唐土織日本手利』を

中心に——

日本近世文学会 平成4年(1992) 6月

橋本裕之「王の舞の演劇学・資料」

学会名不明 年月不明

※日本演劇学会カ。

服部幸造「幸若舞曲の武装表現」

芸能史研究会 昭和63年(1988) 6月

馬場憲二「曾根崎心中——観音廻り」考」

演劇研究会 昭和50年(1975) 9月

・「一楽と二楽子」

演劇研究会 昭和53年(1978) 1月

林公子「江戸の座元——四座の興行機構の形成をめぐって——」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 6月

※題名は角田先生のメモによる。

林久美子「本朝中興花鳥伝」をめぐって」

演劇研究会 平成2年(1990) 8月

・「西尾本「源氏供養」をめぐって——浄瑠璃の歌舞伎化——」

演劇研究会 平成3年(1991) 10月

東晴美「享保期上方歌舞伎における男伊達狂言の成立基盤——絵入狂

言本を中心として——」

演劇研究会 平成3年(1991) 7月

・「金子——高日記 狂言作りと稽古」

演劇研究会 平成4年(1992) 10月

平野健次／久保田敏子「地歌の半太夫ものについて」

東洋音楽学会関西支部例会 昭和51年(1976) 6月

廣瀬千紗子「劇書出版における八文字屋の方法——覚書」

演劇研究会 昭和51年(1976) 4月

・「花江都歌舞妓年代記」の構想とせりふ本」

日本近世文学会 昭和59年(1984) 6月

・「せりふ本」の変遷」

芸能史研究会 昭和59年(1984) 12月

福田晃「沖繩・宮古島の祭祀儀礼——日本芸能の一基底——」

学会名不明 年月不明

二見淑子「日本音楽とソビエト音楽との比較——比較音楽研究——」

東洋音楽学会 昭和63年(1988) 10月

・「ソ連邦諸民族の民族楽器大別表」

東洋音楽学会 昭和50年(1975) 6月

前田美子「仏教音楽協会と仏教讃歌運動」

東洋音楽学会 平成3(1991)年10月

正木ゆみ「講読『傾城反魂香』」

演劇研究会 平成3年(1991) 7月

※補足プリントを付す。

・「シンポジウム『金子——高日記』——役者の給金について——」

演劇研究会 平成4年(1992) 10月

益田幸子「能管と謡の音律関係について——演奏の実際から探る能管

の成立要因」

東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月

升本匡彦「横浜・ゲーテ座について」

学会名不明 昭和43年(1968)年5月

松崎茂「佐渡島の能楽系舞台群の概要について」

日本建築学会 昭和37年(1962)9月

※日本建築学会大会学術講演要旨集。

松平進「上方役者絵の初期―流光斎・松好斎―」

演劇研究会 昭和51年(1976)1月

※配付資料に署名見当たらず。

・「二世嵐璃寛の人氣」

演劇研究会 昭和52年(1977)1月

・「曾根崎心中」

演劇研究会<sup>カ</sup> 年月不明

※「松平記」とあり。

松村博司「大鏡研究法」

龍谷大学国文学会文学講演会 昭和47年(1972)11月

真鍋昌弘「浄瑠璃作品に見える歌謡」

日本歌謡学会 昭和58年(1983)5月

万代育子「脇役存在からみた近松の世話物」

演劇研究会 平成3年(1991)9月

※発表者、題名は角田先生のメモによる。

三浦敏子「人形浄瑠璃『義経千本桜』上演年表」

※早稲田大学大学院演習授業の配布資料<sup>カ</sup>。

水田かや乃「役者評判記からよみとれるもの―元文―寛延期を中心

に―」

芸能史研究会 平成元年(1989)6月

※第26回大会。

水田紀久「兼葭堂寛政未申年月記簿」

日本近世文学会 昭和58年(1983)11月

源光子「大阪侠客像の成立―享保歌舞伎への手がかり―」

学会名不明 年月不明

峯雅彦「仏教思想における音楽の受容」

東洋音楽学会 平成3年(1991)10月

宮内「乱菊穴探(東京大学酒竹文庫蔵)」

学会・研究会名不明 年月不明

※発表者の名前未詳。裏面に信多氏の研究発表に関すると思われるメモあり。

宮田繁幸「近世における人形浄瑠璃興行傾向について―『義太夫年

表』資料を中心として―」

日本近世文学会<sup>カ</sup> 年月不明

宮田登「コモリとハラエ―『白山』と天道念仏」

芸能史研究会 年月不明12月

※第15回。

向井芳樹「近松墳墓考―広濟寺をめぐる―」

日本演劇学会 昭和60年(1985)11月

室木弥太郎「小野お通」

日本近世文学会 昭和60年(1985)6月

茂手木潔子「義太夫節の旋律の研究とその応用1「酒屋」「堀川」

の分析と新作「明烏蝦夷落葉松」の試み」

浄瑠璃研究会 昭和53年(1978)7月

森本梅雄「初代君が代(フエントン作曲)の成立について」

東洋音楽学会 平成3年(1991)10月  
森谷裕美子「金子一高日記」にみる役者の抱え・契約」

演劇研究会 平成4年(1992)10月

山路興造「中世傀儡戯再考」

芸能史研究会 昭和63年(1988)4月

・「共同研究「翁猿楽研究の現況」1 成立研究をめぐって」

芸能史研究会 平成元年(1989)6月

・「諸国の猿楽座」

芸能史研究会 平成4年(1992)6月

※シンポジウム「諸国の猿楽座の伝流」資料。

山路興造他「翁猿楽研究文献目録」

芸能史研究会 平成元年(1989)6月

※共同研究「翁猿楽研究の現況」。

山田和人「傾城吉岡染」序開の構成・演技」

演劇研究会 昭和54年(1979)10月

※『シンポジウム近松』の講読資料カ。

・「井上市郎太夫正本「弘法大師出世之巻」について」

演劇研究会 昭和59年(1984)年3月

・「井上市郎太夫正本「弘法大師出世之巻」について―弘法大師

伝浄瑠璃の展開に即して―」

日本近世文学会 昭和59年(1984)6月

・「傾城今西行」について」

演劇研究会 昭和59年(1984)9月

・「(貞享3年9月中の芸能記事)」

三浦家文書の会 昭和59年(1984)12月カ

※題名は例会案内葉書による。

・「講読資料「けいせい嵐山」」

演劇研究会 昭和61年(1986)3月カ。

山田智恵子「義太夫節の音楽構造」

学会名不明 昭和56年(1981)5月

・「義太夫節の節章の意味と実体」

学会名不明 平成元年(1989)4月

※関西支部第143回定例研究会。

・「浄瑠璃の楽型分類に関する一考察」

東洋音楽学会 平成元年(1989)10月

山田恒人「悲劇と現代 現代において悲劇の創造は可能か」

学会名不明 年月不明

※昭和43年(1968)5月カ。裏に金両基氏「韓国の悲劇」に関するメモあり。

山根為雄「曾根崎心中」近松・加賀掾 異同」

演劇研究会 昭和50年(1975)11月

楊桂香「中国音楽における琵琶の記譜体系」

東洋音楽学会 平成3年(1991)10月

湯浅佳子「『錦木』の性格」

日本近世文学会 平成4年(1992)6月

吉永孝雄「博多小女郎波枕の資料と冥途の飛脚・女殺油地獄の読み

方」

演劇研究会 昭和49年(1974)1月

※題名と年月は角田先生のメモによる。

- ・「長町女腹切」  
演劇研究会 昭和52年(1977) 1月
- 若木太一「嶋原記」の生成とその展開」  
日本近世文学会 昭和61年(1986) 6月
- 和田修「江戸かぶきの小歌と浄るり―野郎かぶきから元禄かぶきへ―」  
芸能史研究会 昭和63年(1988) 6月  
※1枚目のみ。
- ・「野郎かぶきの歌謡―『万葉歌集』を中心に―」  
早稲田大学日本演劇専攻大学院生研究発表会 昭和63年(1988) 12月
- ・「金子吉左衛門日記書誌的覚書」  
演劇研究会 平成4年(1992) 10月
- 渡辺浩子「清元における語り物的特質」  
東洋音楽学会 昭和63年(1988) 10月
- 発表者不明
- ・「嵐三郎四郎致」  
演劇研究会カ 昭和50年(1975) 6月
- ・「(題名不明)」  
演劇研究会 昭和53年(1978) 9月
- ※角田先生のメモに「近松時代浄るりのふけ役の問題」とあり。  
「重井筒」  
演劇研究会カ。 年月不明
- ・「元禄2年・掲出書目」、「西鶴年譜考証(補刪)」、「笠屋三勝略年譜」  
※演劇研究会配布資料カ。
- ・「(題名不明)」  
演劇研究会カ 年月不明
- ※「元禄二年・掲出書目、西鶴年譜考証、笠屋半勝 略年譜等」  
・「(題名不明)」  
演劇研究会カ 年月不明
- ※「よこそねの平太郎」「小倉百人一首」「なすの与一竹生鳥詣付舟いこんの事」「多田満仲」の道行部分を記す。1枚。
- ・「(題名不明)」  
演劇研究会カ 年月不明
- ※役者評判記の切り貼り。1枚。
- ・「(題名不明)」  
※義太夫節を5線譜に記したもの。義太夫研究会カ。
- ・「一中節と義太夫節」  
義太夫節研究会カ。 年月不明
- ・「一谷嫩軍記 三段目切 熊谷陣屋の段」  
東洋音楽学会 昭和43年(1968) 10月
- ※公開講演会資料。冊子。四代竹本津太夫・節譜、六代鶴澤寛 治三味線譜。冊子。
- ・「真言宗豊山派 大般若法則」  
東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月
- ※実演のための資料カ。
- ・「坂東曲譜」

- 東洋音楽学会 平成3年(1991) 10月  
※実演のための資料。
- ・「閑吟集」関係の謡と仕舞」  
日本歌謡学会 平成2年(1990) 5月  
※実演のための資料。
- ・「大和猿楽遺跡巡歴」  
日本演劇学会 昭和44年(1969) 5月  
「各地の芸能集団」
- 学会名不明 月日不明  
※永井彰子氏<sup>カ</sup>。日本演劇学会<sup>カ</sup>。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 昭和59年(1984) 頃<sup>カ</sup>月不明  
※「家乗」影印コピー。延宝6、8年。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※「新野郎花垣」他の引用あり。武井氏<sup>カ</sup>。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※阿部千栄子氏<sup>カ</sup>。「国4 梵天国」とあり。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明(7602の内7632箱52)  
※阿部千栄子氏<sup>カ</sup>。「梵天国の分析」とあり。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※土田衛氏<sup>カ</sup>。「静腰本アケホノ」「元禄元年」とあり。

- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※冒頭に「洛陽紀行」とあり。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※「和中文庫蔵(和中金助氏)」とあり。影印と翻字。
- ・「(題名不明)」  
三浦家文書の会 年月不明  
※「洛外惣図」(京羽二重 卷一)とあり。影印。  
※学会配布資料<sup>カ</sup>。
- ・「解説15」  
学会名不明 年月不明  
※能操に関して。
- ・「国文学研究におけるコンピューター利用と私」  
学会名 年月不明  
※学会配布資料<sup>カ</sup>。筆者は「国文学 解釈と鑑賞」昭和46年1月の「学界展望(近世)」の筆者。
- ・「一絃琴について」  
※学会配布資料<sup>カ</sup>。
- ・「総譜 平調 越殿楽」  
※学会配布資料<sup>カ</sup>。2枚。



●研究会及び学会関係資料

演劇研究会

「会計報告」昭和34年(1959) 7月〜昭和36年(1961) 2月

「演劇研究会名簿」昭和36年(1961) 2月

「演劇研究会よりのお知らせ」昭和36年(1961) 3月

※4月例会の案内あり。

「兵庫県佐用郡南光町「上三河農村舞台」見学の御案内」

昭和37年(1962) 9月

「演劇研究会例会報告・お知らせ」

※昭和38年(1963) 9月例会の報告と次回例会のお知らせ等。

「演劇研究会例会報告・お知らせ」

※昭和38年(1963)カ10月例会の報告と次回例会等のお知らせ。「役者評判記目録」「狂言本目録」の書き方を記した紙を付す。

「演劇研究会例会報告・お知らせ」

※昭和38年(1963) 11月例会の報告と次回例会等のお知らせ。

「演劇研究会例会報告・お知らせ」

※昭和39年(1964) 1月例会の報告と次回例会等のお知らせ。

「演劇研究会例会報告・お知らせ」

※昭和39年(1964) 4月例会の報告と次回例会等のお知らせ。

「(三原町の人形祭りの予定、再び変更のお知らせ)」

演劇研究会 昭和40年(1965) 8月

※年月は角田先生のノートによる。

「演劇研究会5月例会 日時変更のお知らせ」

※昭和41年(1966) 5月例会の案内。

「例会御案内」

※昭和45年(1970) 1月例会の案内。

「演劇研究会所蔵図書目録 S 48、12、14現在」

「演劇研究会 連絡者名簿(アイウエオ順)」

※昭和49年(1974) 頃カ。

「(お知らせと例会御案内)」

※昭和50年(1975) 2月例会の案内。再開2年目、事務局の設置、研究発表と共に輪読を行うこと、隔月例会を月例会にすることなどの通知。

「演劇研究会 3月例会休会のお知らせ 第9回例会御案内」

※昭和50年(1975) 4月例会の案内。

「演劇研究会 第10回例会御案内」

※昭和50年(1975) 5月例会の案内。

「(演劇研究会 例会案内)」

※昭和50年(1975) 9月例会の案内。

「(十一月例会案内)」

※昭和50年(1975) 11月例会の案内。

「演劇研究会御案内」

※昭和51年(1976) 6月例会の案内。

「演劇研究会例会御案内」

※昭和51年(1976) 7月例会の案内。

「演劇研究会例会御案内」

※昭和51年(1976) 9月例会の案内。

「演劇研究会例会御案内」

※昭和51年(1976) 11月例会の案内。

「演劇研究会例会御案内」

※昭和52年（1977）1月例会の案内。

「演劇研究会1月例会御案内」

※昭和53年（1978）1月例会の案内。

「亀崎汐干祭り御案内」

※昭和53年（1978）5月見学の案内。「山車巡行時刻表 昭和53年潮干祭」〔近松研究所紀要第26号〕「角田先生旧蔵資料仮目録3」既出）もあり。

「演劇研究会5月例会御案内」

※昭和53年（1978）5月例会の案内。

「演劇研究会6月例会の御案内」

※昭和53年（1978）6月例会の案内。

「演劇研究会4月例会御案内」

※昭和59年（1984）4月例会の案内。

「演劇研究会5月例会御案内」

※昭和59年（1984）5月例会の案内。

「演劇研究会7月例会御案内」

※昭和59年（1984）6月例会の案内。

「演劇研究会9月例会御案内」

※昭和59年（1984）9月例会の案内。

「演劇研究会例会御案内」

※昭和59年（1984）10月・11月例会の案内。

「演劇研究会12月例会御案内」

※昭和59年（1984）12月例会の案内。

「演劇研究会1月例会（新年会）御案内」

※昭和60年（1985）1月例会の案内。

「演劇研究会3月例会御案内」

※昭和60年（1985）3月例会の案内。

「演劇研究会4月例会御案内」

※昭和60年（1985）4月例会の案内。

「演劇研究会12月例会御案内」

※昭和63年（1988）12月例会の案内。

「演劇研究会8月例会後案内」

※平成2年（1990）8月例会の案内。

「演劇研究会1991年（1/1～12/31）決算報告」

※平成4年（1992）年1月に配布カ。

「演劇研究会10月例会御案内」

※平成4年（1992）10月例会の案内。

「演劇研究会8月例会ご案内」

※平成6年（1994）8月例会の案内。

「演劇研究会9月例会ご案内」

※平成6年（1994）9月例会の案内。

「演劇研究会12月例会ご案内」

※平成6年（1994）12月例会の案内。

「演劇研究会平成7年度新年会ご案内」

※平成7年（1995）1月例会の案内。角田先生の書入れに「1月17日阪神大地震」とあり。

「演劇研究会来越会員名簿」

年不明8月

※小冊子。越後の綾子舞見学時のものカ。綾子舞のパンフレット

ト(3つ折り)を付す。

「曾根崎心中」年忌上演年表(未定稿)

※祐田先生作成の年表。これを中心に「続・近松の研究と資料」の共同研究の話し合いをする、とあり。

義太夫研究会

「第20回 義太夫研究会御案内」

※昭和58年(1983)7月の会の案内。

「第27回義太夫研究会御案内」

※昭和62年(1987)6月の会の案内。「ご連絡事項」を付す。

「義太夫研究会会員名簿」

※昭和63年(1988)11月現在(「近松研究所紀要第26号」「角田一郎先生旧蔵資料 仮目録3」に既出)。

芸能学会

「会員の皆様へ」

平成6年(1994)2月

「事務所移転のお知らせ」

平成6年(1994)3月

「役員改選に伴う理事の選出について」

平成6年(1994)年3月

芸能史研究会

「(播州歌舞伎の話を聞く会の案内)」

昭和38年(1963)7月

※葉書。速達、ペン書き。播州歌舞伎の元役者、中村福圓氏の話を聞く由。

「昭和59年度 芸能史研究会東京例会のお知らせ」

※昭和59年(1984)12月の案内。

「第26回芸能史研究会大会レジュメ」

平成元年(1989)6月

※冊子。

東洋音楽学会

「東洋音楽学会(関西支部)第7回定例研究会」

昭和36年(1961)4月

※研究会案内。

「(講演について)」

昭和36年(1961)6月

※電報。7月2日の講演の内容と時間配分について。

「東洋音楽学会第96回例会」

昭和36年(1961)12月

※例会案内。

「東洋音楽学会第99回定例研究会」

昭和37年(1962)3月

※研究会案内。

「第177回東洋音楽学会定例研究会」

昭和45年(1970)9月

※研究会案内。

「(役員改選について 他)」

昭和45年(1970) 8月

※封書。「役員改選について」「社団法人東洋音楽学会役員選挙1970年度投票用紙」「選挙用東洋音楽学会会員名簿」返信用封筒。  
〔第179回東洋音楽学会 定例研究会(第11回東洋音楽学会・音楽学会合同例会)〕

昭和45年(1970) 12月  
※研究会案内。

〔東洋音楽学会関西支部第46回例会御案内〕  
昭和45年(1970) 12月

※往復葉書。懇親会の出欠用。

〔東洋音楽学会関西支部第70回例会御案内〕  
昭和50年(1975) 11月

〔第229回東洋音楽学会定例研究会〕

昭和51年(1976) 7月  
※研究会案内。

〔東洋音楽学会関西支部第74回例会御案内〕  
昭和51年(1976) 6月

〔社団法人 東洋音楽学会 第25回大会・第5回通常総会〕  
昭和51年(1976) 10月  
※冊子。

〔第273回東洋音楽学会定例研究会〕

昭和56年(1981) 6月  
※葉書の下の部分に破れあり。

〔委嘱状〕

昭和59年(1981) 10月

※参与の委嘱状。

〔委嘱状〕

昭和61年(1986) 10月  
※参与の委嘱状。

〔(東洋音楽学会第39回大会 進行表)〕

昭和63年(1988) 10月  
〔(「東洋音楽研究」掲載の原稿について)〕

平成元年(1989) 7月  
※封書。「東洋音楽研究」掲載の原稿と校正刷の返却。

〔社団法人 東洋音楽学会第40回大会〕

平成元年(1989) 10月  
※冊子。

〔社団法人 東洋音楽学会第42回大会〕

平成3年(1991) 10月  
※冊子。

〔東洋音楽会鑑賞会について〕  
平成3年(1991) 10月  
※東洋音楽学会大会資料

〔学内食堂のご案内〕  
平成3年(1991) 10月

※東洋音楽学会第42回大会で配布カ。龍谷大学深草学舎。

日本演劇学会

〔日本演劇学会総会並びに研究発表会〕

昭和37年(1962) 5月

※葉書。

葉書

昭和37年(1962) 8月

※神戸市外の山田舞台見学について。幹事の国分保氏より。

「日本演劇学会 昭和37年度秋季大会御案内」「役柄の研究」研究会案内

昭和37年(1962) 10月

※日本演劇学会関西支部。

封書

昭和45年(1970) 6月

※「お知らせ」「名簿訂正表」。

「平成3年度収支決算報告 平成4年度予算(案)」

※日本演劇学会の資料カ。「日本演劇学会々報」35に挟む。

「お知らせ」

「日本演劇学会春季大会」

平成4年(1992) 5月

※大会案内。

「平成6年度日本演劇学会秋季大会」

平成6年(1994) 10月

※出欠用の返信用葉書。払込票を付す。

「日本演劇学会入会申込書」

※コピー。推薦者の欄に角田先生の署名捺印。

日本歌謡学会

「日本歌謡学会 創立20周年記念(昭和58年度春季)大会 日程及

び研究発表要旨」

昭和58年(1983) 5月

「(日本歌謡学会理事会 場所変更のお知らせ)」

昭和59年(1984) 3月

「平成3年度 日本歌謡学会秋季大会御案内」

平成3年(1991) 10月

「平成6年度 日本歌謡学会秋季大会御案内」

平成6年(1994) 10月

※封書。高岡市万葉歴史館パンフレット、高岡までの交通案内、

「梅の木資料館歌謡関係資料展観」案内、払込み用紙を付す。

日本近世文学会

「昭和35年度春季日本近世文学会案内」

※昭和35年(1960) 5月開催。

「昭和49年春季日本近世文学会研究発表会発表要旨」

昭和49年(1974) 6月

「昭和49年日本近世文学会春季大会参加者名簿」

封書

昭和56年カ7月

※書面はコピー。

仏教文学会

「仏教文学会 研究発表要旨」

昭和59年(1984) 6月

「仏教文学会本部12月例会のお知らせ」

平成2年(1990) 12月

「仏教文学会12月本部例会」案内 仏教文学会12月支部例会」案内

(「説話文学会と合同」)

平成4年(1992) 12月

### 文楽研究会

年月不明

※封筒のみ。龍谷大学土井順一研究室気付。

### 三浦家文書の会

「『三浦家文書』を読む会」案内

昭和58年(1983) 10月開催

※第1回。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 1月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 3月例会。

「三浦家文書の会例会」案内」

※昭和59年(1984) 4月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 5月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 7月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 8月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 9月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 11月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和59年(1984) 12月例会。

「三浦家文書の会」例会記録」

※昭和58年(1983) 12月～昭和59年(1984) 12月までの会の記録。

「三浦家文書の会」報告資料集発行の件および2月例会の」案内」

※昭和60年(1985) 2月例会カ。案内には「昭和59年2月」と記すが、昭和60年のことではないかと考えられる。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和60年(1985) 3月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和60年(1985) 4月例会。

「三浦家文書の会例会御案内」

※昭和60年(1985) 5月例会。

「三浦家文書の会例会」案内」

※昭和61年(1986) 2月例会。

### 民俗芸能学会

「委嘱状」

昭和62年(1987) 4月

※評議員。

「民俗芸能学会 平成5年度大会 研究発表要旨」

平成5年(1993) 10月

※「民俗芸能学会 平成5年度大会案内」「第1日統一テーマ 民俗芸能の継承・断絶・再生について 大会実行委員会」「文化庁創設25周年 平成5年度芸術祭国際講演・第17回日本民謡まつり アジア・太平洋うたとおどりの祭典 御招待券」「文化庁企画 第43回全国民俗芸能大会 日本の神楽と御田・風流」招待券、払込み用紙を付す。

早稲田大学関係

〔早大国文学会の委員に決定した旨の通知〕

昭和45年(1970) 1月

〔昭和45年度早大国文学会 総会・研究発表会のお知らせ〕

昭和45年(1970) 11月

〔早大国文学会委員会開催のお知らせ〕

昭和45年(1970) 11月

〔第2回 日本演劇専攻大学院生研究発表会〕

昭和63年(1988) 12月

〔事務局よりお知らせ〕

平成2年(1990) 5月

※「空穂忌記念文芸講演会」。空穂忌世話人会(短歌結社及び

早稲田大学国文学会による)主催。

〔平成4年度早稲田大学国文学会大会〕

平成4年(1992) 11月

※発表要旨を付す。

〔1993(平成5)年度早稲田大学国文学会大会〕

平成5年(1993) 11月

〔1998(平成10)年度 早稲田大学国文学会秋季大会〕

平成10年(1998) 12月

※発表要旨を付す。

〔COE博士論文成果報告会〕チラシ

平成17年(2005) 3月

● バインダー

〔操年譜(慶長以前之部)〕

※奈良時代よりの「くぐつ」「傀儡」等の記事。

〔謡〕

※表章氏「鴻山文庫本の研究」について、世阿弥自筆能本について等。

〔江戸時代道行文 竹斎・是楽物語・浮世物語・他力本願記・筆曲〕

※近世文学作品、古浄瑠璃「他力本願記」の道行について。

〔延宝天和間道行〕

※「住吉相生物語」「十界二河白道」「一心二河白道」等10作品の道行について。

〔延宝・天和・貞享・元禄1673〜1703 古浄瑠璃・説経 第三〕

※天和〜元禄期における古浄瑠璃、説経、芸能記事について。

〔旧記拾葉集 外〕

※「旧記拾葉集」「鸚鵡籠中記」、俳書他に見られる芸能記事等について。

「近世農山漁村の歌舞伎」

※福知山周辺、及び他地域について。

「金幣猿嶋郡」

「金平浄瑠璃」

※金平浄瑠璃段初の短小場面について等。昭和62年頃カ。

「慶長〜明暦（1596〜1657）古浄瑠璃 説経 第1」

※中に「編年体浄瑠璃資料集」とあり。

「古浄瑠璃正本1」

※古浄瑠璃の正本について。「古浄瑠璃正本集」からの書抜きカ。

「古浄瑠璃正本（年代順）2」

※「一心二河白道」「日本王代記并神武天皇ノゆらひ」等の古

浄瑠璃正本について。

「古浄瑠璃の構造1」

※万治、寛文期の古浄瑠璃について。「国性爺合戦」（昭和57年

1982）2月国立劇場）観劇覚え書き。

「古浄瑠璃道行集2」

※古浄瑠璃の正本及び道行について。

「忍四季揃」

※「忍四季揃」の節付、嘉太夫節と義太夫節対比曲目のある段

物集、「出世景清」の道行の節付、「西行物語」節付等について。

「浄瑠璃 十二段草子」

※「浄瑠璃十二段」の諸本について。

「浄瑠璃十二段の草紙」

「浄瑠璃資料集（事項別）」

※永禄10年（1567）〜元和2年（1616）の操、浄瑠璃以外の芸能記

事、小野お通、人形浄瑠璃の受領者、左内若狭守等について。

「浄瑠璃道行集1」

※「松平大和守日記」所載道行事項、古浄瑠璃作品の道行につ

いて。

「菅原伝授手習鑑」

※昭和53年度、帝京大学文学部国文学科の講義用。

「説経節道行」

「近松存疑・道行1」

※「江州石山寺源氏供養」「よこぶ多たき口恋之道心」等13作

品における道行について。

「近松・道行1」

※「世継曾我」から「当流小栗判官」まで11作品の道行につ

いて。

「地名読み込み句集」

※舞曲「信太」他の作品に見られる地名について。

「中世芸能（除猿楽）」

※応永24年（1417）〜永禄13年（1570）の芸能記事。

「中世芸能（除猿楽）2」

※永禄13年（1570）〜寛永15年（1638）の芸能記事。

「天理善本叢書」

「土佐節」

※角田先生所蔵の「逸題土佐節段物集」（「近松研究所紀要第

26号）「角田一郎先生旧蔵資料 仮目録3」所収）についての

考察。張り紙に「土佐節道行」とあり。

「節譜 諸流対比」



※播磨撥段物集と加賀掾、筑後掾の曲節との比較。

〔亡失・所在不明〕

※焼失、所在不明の古浄瑠璃正本について。

〔万治・寛文  
1658—1672〕

※万治、寛文期の芸能記事、浄瑠璃正本、道行等について。角

田先生の付した張り紙に「古浄瑠璃道行」とあり。

〔未整理〕

※寛永18年(1641)〜正保3年(1646)の芸能記録。尾道の資料、

人形浄瑠璃に関する資料他。

〔道行 幸若舞曲〕

〔道行文(上代—室町)〕

※様々な文学作品における道行について。

〔宮島番付(林家所蔵分)〕

※林家所蔵の資料。天保から慶応年間のものあり。

〔宮島芝居番付 年代順〕

※番付の年、座元、役者、番付の種類、備考等を記す。

〔謡曲道行 下懸り車屋本〕

※「朝日日本古典全書 謡曲集」上巻、中巻の作品について。

〔題名不明〕

※「松浦五郎」「出世景清」「心中天の網島」の節付に関して。

〔題名 判読不能〕

※目次に「播磨節」「大日本神道秘密の巻」、清水理太夫「松浦

五郎」、「出世景清・心中天の網島・長町女腹切」のステテ、若

月保治氏摘出の文字譜、竹子集のハルの類、江戸土佐節の「ふ

えのだん」、宇治賀太夫「西行物語」とあり。

〔題名 判読不能〕

※目次に「花山院道行諸本 用明天王職人鑑 千尋集」とあり。

### ●ファイル

〔大分県史料 三一書房分〕

※島通夫氏「北原人形おほえがき4」、半田康夫氏「傀儡子か

ら役者へ—豊前北原芝居の研究—」、半田康夫氏「北原芝居の

民俗学的考察」(「北原芝居無形文化財第1集」)、久多羅木儀一

郎氏「北原芝居沿革考」(「北原芝居無形文化財第1集」)、大分

県立大分図書館「大分県史料(原稿) 目録」、「豊後国志」巻之

四抄、「大分市誌」カ抄、以上コピー。大分市近辺地図(自筆)。

〔学会・研究会 会費納入帳〕

※岩波書店よりの納品書、挨拶状、勉強社からの請求書、自筆

の書籍の購入記録、研究会の会費支払い等。

〔河東節・一中節「翁」「三番叟」・「日本音曲全集目次」〕「能・狂

言事典」翁・三番叟」「日本舞踊辞典」翁・三番叟 雅楽事典 千

秋楽 萬歳楽

※「翁」「三番叟」関係資料。「河東節 翁」(「日本音曲全集」)、

「一中節 三番叟」(「日本音曲全集」)、「日本音曲全集」11抄、

「能・狂言事典」抄、「日本舞踊辞典」抄、「雅楽事典」抄、他

のコピー。

〔「嘉栗研究」三井高陽編〕

※森修氏「江戸浄瑠璃と紀上太郎」、三井高大氏「白石噺と其

作者嘉栗」、高安六郎氏「嘉栗と上方狂歌に就て」、木村豊三郎氏「白石噺の浄瑠璃の前に」、浅井勇助氏「糸桜本町育、碁太平記白石噺の興行年代と錦絵」、三井高陽氏「嘉栗の一身について」、三井高陽氏「嘉栗著狂歌関係刊本解題」、小野圭史氏／三井高陽氏編「三井嘉栗年譜」、木村豊三郎氏「追善会 閉会の辞」、牧村史陽氏「閉会の辞」、「嘉栗居士追善会次第」、「会場に於ける展覧目録」。以上コピー。

「義太夫年表 近世編 カードコピー 国立劇場」

※「義太夫年表 近世篇」作成のためのカードのコピーか。

「F1 紀上太郎 (三井高業・仙果亭嘉栗)」

※岩波書店『日本古典文学大辞典』『紀上太郎』の項の執筆のための資料。自筆の目次「紀上太郎関係記事抄」を付す。「紀上太郎」(『日本古典文学大辞典』)校正刷、「紀上太郎」(『日本文学大辞典』)、「白石噺」(『世界大百科事典』)、『玉川百科大辞典』の「浄瑠璃」の項目中、紀上太郎に言及した箇所、「碁太平記白石噺」(『世界名著大事典』)、「碁太平記白石噺」(『演劇百科大事典』)、「紀上太郎」「碁太平記白石噺」(『大日本百科事典(ジャポニカ)』)、「碁太平記白石噺」(『万有百科大事典』)、「紀上太郎」(『大人名事典』)、「大字典」、『大日本人辞書』、『校訂江戸作者浄瑠璃集』(続帝国文庫 解題抄、吉永孝雄「貞柳伝」抄、大谷篤蔵「翻刻 狂歌貞柳伝」抄、「碁太平記白石噺」(『義太夫年表 近世篇』)、「大阪訪碑録」(『浪速叢書』)抄、『校本三井家史料 南家第4代三井高業』抄、丸本「志賀の敵討」抄、丸本「糸桜本町育」抄、丸本「納太刀誉鑑」抄、丸本「碁太平記白石噺」抄。以上コピーまたは紙焼写真。

「紀上太郎資料」

※紀上太郎関係資料コピー。『例操鑑 九之巻』抄、小川保「京都における三井家の屋敷―集積過程からみた特質」抄、『三井文庫論叢』14)、「三井家系図」(『三井事業史』本篇第1巻)、『稿本三井家史料』抄、『大阪人物誌』抄、『義太夫年表近世篇』抄、『峡中劇場記録』抄、「三井高業学芸資料」1、2 (『三井文庫論叢』11、12)、「三井高業学芸資料」3抄、「碁太平記白石噺」番付、他に書簡、葉書等。

「曲節一覧表 コピー原稿 曲節関係5」

※自筆資料。「忍四季揃文字譜一覧表」(『仮題播磨風道行揃文字譜一覧表』)、「出世景清」の曲節と詞章の關係 (日本近世文学会発表資料 昭和49年11月)、「忠臣蔵の「スエ」」(コピー)、「ギンのツボ(勘どころ)」に関する一考察―播磨節の「下ざん」に關連して―「節譜要調査本リスト・古浄瑠璃」(松浦五郎(清水理太夫正本) 文字譜)、「西行物語(宇治賀太夫正本) 文字譜」等。

「熊野参詣 日本舞踊名曲事典抄出 万葉の歌抄 富山県地名」

※五来重「熊野詣 三山信仰と文化」抄、児玉洋一「改定熊野三山経済史」抄、犬養孝『万葉の歌 下』抄、『角川日本地名大辞典 富山県』抄、『日本舞踊名曲事典』抄、以上コピー。

「5行 浄瑠璃稽古本目録 7行通し本1〜100」

※自筆資料。嘉永3年刊「五行／四行 浄瑠璃外題(目録)」についてのカード。

「5行／4行 浄瑠璃本稽古目録 7行通し本101〜201」

※自筆資料。浄瑠璃本カード。記入量少なし。「周防町天牛書

店案内図」を付す。

〔古浄瑠璃1〕

※自筆資料。アルファベットの「A」～「G」で始まる古浄瑠璃本のカード。角田先生「九州大学所蔵古浄瑠璃正本四種紹介」(演劇研究会配布資料)をばさむ。

〔古浄瑠璃2 H-J〕

※自筆資料。アルファベット「H」から「J」で始まる書名の古浄瑠璃本カード。

〔古浄瑠璃3 K〕

※自筆資料。アルファベットの「K」、「か」行で始まる古浄瑠璃本のカード。

〔古浄瑠璃4 K2-R〕

※自筆資料。「古浄瑠璃3」の続き、アルファベット「K」から「R」で始まる書名の古浄瑠璃のカード。

〔古浄瑠璃5・1 S1〕

※自筆資料。アルファベット「S」で始まる書名の古浄瑠璃本カード。

〔古浄瑠璃5・2 S2 8〕

※自筆資料。古浄瑠璃本に関するカード。アルファベットの「S」、「x」行から始まる書名のもの。

〔古浄瑠璃6 T〕

※自筆資料。古浄瑠璃のカード。アルファベットの「T」、書名が「た」行から始まるもの。

〔古浄瑠璃7 U-Z〕

※自筆資料。アルファベット「U」から「Z」で始まる書名の

古浄瑠璃カード。

〔古浄瑠璃及初期義太夫 浄瑠璃道行文抄書〕

※自筆資料。「大坂すけ六心中物語」「近江国しが物語」「大友真鳥」(義太夫正本)等の道行文の抜き書き。「昭和二十年代、天理行。中村幸彦教授研究室にて。天理蔵 浄瑠璃本道行控え」と表に書いた封筒もあり、中にコヨリで綴じた道行文の抜き書きを入れる。

〔古浄瑠璃翻刻書目次及び年表 近松全集 朝日〕

※西宮市中央図書館「成人用書架一覧表 分類番号・書架番号一覧表 成人用書架案内図」、「芸能(地芝居 買芝居) 聞書採集票(無記入)、以下、コピー」金平浄瑠璃正本集総目次、「古浄瑠璃正本集総目次」、「初期上方子供絵本集」広告、「新編国歌大観 全十巻収載作品一覧」、「寛永寛文期浄瑠璃年表」、「新群書類従五」抄、「新群書類従九」抄、「特殊文庫所蔵 マイクロフィルム連合目録」抄、等。以下、自筆資料「出羽掾・岡本文弥」、「古浄瑠璃正本集 角太夫編」、「古浄瑠璃集 角太夫正本 一」、「古浄瑠璃正本集 加賀掾編 全五巻」、「近松作及び存疑作浄瑠璃索引」、「近松全集本 道行所在巻調査」等。

〔三都・京都府・兵庫県柏原町・熊本県上益城郡・秋田県院内銀山〕

※コピー。守屋毅氏「三都」抄、京都府資料(出展不明)、「柏原藩史」抄、「柏原町志」抄、「熊本県史」抄、「熊本県史料集」抄、「秋田県史」抄。複写引受書。

〔浄瑠璃段物集〕

※自筆資料。古浄瑠璃、義太夫節、段物集のカード。

〔浄瑠璃本調査票〕

※コピー。浄瑠璃稽古本書誌。角田先生自筆で「目録作成のため  
の補修」とあり。昭和61年10月頃作成。記入者、藤谷氏。  
〔浄瑠璃本調査票〕

※コピー。浄瑠璃稽古本書誌。角田先生自筆で「目録作成のため  
の補修」とあり。昭和61年11月頃作成。記入者、藤谷氏。

〔新古典 宿題〕

※自筆資料。『新日本古典文学大系』「竹田出雲 並木宗輔 浄  
瑠璃集」関係のカード。

〔⑥新版歌祭文 野崎村の段〕

※コピー。鶴澤道八「上の巻」「野崎村」〔「文楽の鑑賞」〕、「野  
崎村の段」〔日本名著全集〕、「下の巻 長町の段」〔日本古典文  
学大系「浄瑠璃集」〕、「野崎村の段」〔七行本〕、「新版歌祭文  
野崎村 津大夫」〔竹本津大夫04氏 床本 昭和50年書〕、「新  
版歌祭文 野崎村 津大夫」〔竹本津大夫04氏 床本 昭和24  
年掛合〕、「野崎村 三味線譜」〔竹澤団七氏〕、角田先生「古  
浄瑠璃土佐節の口三味線」原稿等。

〔説経節1〕

※自筆資料。説経浄瑠璃本のカード。

〔説経節2〕

※自筆資料。アルファベット「M」以降で始まる書名の説経

浄瑠璃本のカード。

〔近松半二 独判断 写真〕

※「近松半二没年考」関係資料。自筆資料「穂積以貫・近松半  
二年譜(草稿)」等。コピー「京撰戯作者考」抄、渋井清氏「曾

根崎心中―竹本義太夫の正本」(紙焼き写真)、「穂積以貫先生  
／近松半二翁追慕之碑記念絵葉書」、書簡6通、葉書1枚。「独  
判断」の写真は見当たらず。

〔中古／中世 紀行文抄 付和歌抄〕

※ファイル表紙の付箋に自筆で「紀行文 石山詣で 熊野詣で  
歌集 長歌の道行文 東下り いぬほし」とあり。自筆の目  
次あり。「和泉式部日記」抄(石山詣で『日本古典文学全集』)、  
「蜻蛉日記」抄(石山詣で『日本古典文学全集』)、「蜻蛉日記」  
抄(石山寺参籠「かげろふ日記全評解 上」)、「更級日記」抄(物  
詣での記『日本古典文学全集』)、「春能深山路」抄(『続群書類  
従』)、「いほぬし 僧基法師」抄(『国歌大観』三)、「遺塵和歌  
集」抄(『国歌大観』六)以上コピー。

〔中世小説(御伽草子) 道行文コピー〕

※コピー。青木晃氏／内藤悦永氏「京都・清涼寺蔵「滝口縁起」  
抄、「朝顔の露の宮」抄(岩波文庫「お伽草子」)、「小町双紙(古  
写本)」(室町時代物語大成)5)、「唐糸草紙」抄(岩波文庫「お  
伽草子」)、「あふぎながし」抄(室町時代短編集)、「大橋の  
中将」抄(室町時代短編集)、「くるま僧」抄(室町物語大成  
4)、「幻夢物語」抄(室町物語大成)4)、「白ぎくさうし」  
抄(室町時代物語集)3)、「朝貝のつゆ」(室町物語大成)1)、「  
あさかほのつゆ」抄(室町時代物語集)三)。

〔鉄砲差し〕

※舞台調査票(書込少々あり)、神奈川県教育庁からの書簡、  
神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課主幹(当時)の名刺、  
木片等。

〔土佐節 鈴鹿山大嶽丸 第1冊〕

※クリアファイル。自筆資料。土佐浄瑠璃「鈴鹿山大嶽丸」の節章について。

〔土佐節 第2冊〕

※クリアファイル。自筆資料。土佐浄瑠璃「鈴鹿山大嶽丸」の節章について。

〔第3冊 土佐節〕

※クリアファイル。自筆資料。土佐浄瑠璃「鈴鹿山大嶽丸」の節章について。

〔4 定家 口三味線〕

※クリアファイル。自筆資料。浄瑠璃本の部分的透き写し。土佐浄瑠璃「定家」の節章について。

〔中根淑著 歌謡字数考〕

※コピー「歌謡字数考」抄、「弘法大師伝」抄、コピー(辞典カ)、学生宛自筆書簡のコピー。自筆原稿「第三章 「松の葉」の音数律」抄、自筆メモ。

〔人形図 人形芝居図〕

※「人形劇の成立に関する研究」巻頭写真等、人形、人形図の資料を挟む。

〔人形舞台画証史の総合的研究〕

※「花飾三代記」七行本写真4枚。以下コピー。「艷容歌妓結」(東大図書館)抄、「潤色江戸紫」絵尽し(早稲田大学演劇博物館)抄、「糸桜本町育」絵尽し(土田衛氏所蔵)抄、「北条時頼記」絵尽し(土田衛氏所蔵)抄、「累解脱打鋪」(東大図書館蔵 亨文庫)抄コピー、劇場図(歌川豊春画)、「名筆傾城鑑」絵

尽し(慶応義塾図書館)抄、「恋女房染分手綱」絵尽し(慶応義塾図書館)抄。その他、書簡2通、自筆資料等。

〔農村舞台を探る〕

※「西宮市役所電話番号表」、コピー「農村舞台を探る」目次、自筆原稿、自筆メモ、執筆依頼の書簡コピー、書簡等。「農村舞台探訪」の元となった資料。

〔兵庫県和田山町〕

※葉書、名刺、メモ、舞台調査票、自筆調査記録。

〔広島大学講義案〕

※コピー。ノート「昭和41年度 国文学史 中世、近世 vol.4 近世文学史 角田」、自筆メモ、学生の感想文。

〔福知山〕

※福知山の地図。コピー「全国農村舞台分布概図」(農村舞台の総合的研究)付録。自筆資料。「福知山市史」の記述についての問い合わせの手紙の控え(下書き)。守屋毅氏の著書からの引用文献について等。

〔平家物語道行抄〕

※コピー。「平家物語 延慶本」道行部分、「平家物語 真事熱田本」、玉井幸助「真事熱田本平家物語解説」抄、「平家物語」巻十 重衡東下り(「新潮日本古典集成」)。表紙破損。

〔前橋市立工業短期大学 主任教授 工学博士 故松崎茂先生御書簡〕

※書簡9通。コピー「文化財申請様式の一例 前橋短大 松崎研究室」、松崎茂「佐渡島能楽舞台群の概要について」日本建築学会学術講演要旨集 昭和37年(1962)9月、領収書、名刺。

「道行 ゆみつき」

※「ゆみつき」「あさかほのつゆ」関係資料。コピー「ゆみつき」  
〔室町時代短編集〕、「あさかほのつゆ」抄〔室町時代物語集〕  
三)、他に自筆資料。

〔題名 判読不能〕

※花山院道行に関する原稿の一部(原稿用紙に32と41と番号をふる)、その他自筆メモ。「蓬左文庫所蔵 尾崎久弥コレクショ  
ン マイクロフィルム版」広告〔近松研究所紀要〕第27号「仮  
目録四」所収。

〔題名不明〕

※『人形浄瑠璃舞台史』のための資料カ。角田先生「近松浄瑠  
璃の操りと語り」「近松浄瑠璃の演劇性―舞台形式・人形形式  
を中心に―」(発表配布資料)、能操りについての操法図(コピー)、  
「箱まわし形式 江戸中期」の図(ペン描き)、「初期人形  
劇場図(コピー)」、「阿波人形芝居小屋掛見取図(コピー)」、「国  
立劇場小劇場文楽舞台構造図(コピー)」、角田先生「人形浄瑠  
璃の付舞台について」(龍谷大学論集) 395)付図、多宝寺(秩  
父長瀬) 女人念仏講絵馬の写真と印刷物、茶運び人形写真(山  
崎構成氏の書簡を付す)、「巖島彌山全景」(印刷)、犬山祭礼山  
車絵葉書、安乗文楽写真、「三河国八橋之無量寿寺図」(絵葉書、  
使用済)、「巖島弥山全景」(明治16年宮島絵図 「仮目録四」に  
既出)、人形図コピー、角田先生原稿、手書き資料等。

〔題名不明〕

※人形舞台図等コピー。自筆「曾根崎心中」初演と現行の比較  
(1枚)、原稿下書き、その他メモ。

## ●スクラップブック

「仮名手本忠臣蔵と文楽座 戦前衣裳切れ帖 吉永孝雄 手作り  
第10号」

※表紙に浄瑠璃番付の一部を貼る。カラー印刷物からの切抜き  
で、文七首、「仮名手本忠臣蔵」大序から九段目までの写真と  
説明、文楽の裏方の写真と説明、人形衣裳の端切れを貼る。

## ●ノート

浄瑠璃に関するもの

「岩波講座 歌舞伎・文楽 第8巻近松の時代 第1部義太夫節の  
成立 1貞享2年の道頓堀 30枚 角田」

「岩波新日本古典文学大系 出雲・宗輔浄瑠璃集 解説・付録用メ  
モ 4 作品中調査漏れ及び調制・訂正追加」

※メモを多く挟む。

「岩波新日本古典文学大系 竹田出雲／並木宗輔浄瑠璃集 通信  
控 4 自平成2年8月15日 角田」

※メモ類、書簡を多く挟む。

〔絵尽し〕

※平成2年頃のノートカ。約4頁使用。

「宴曲抄上 熊野参詣 早歌(宴曲) △長歌「遺塵和歌集」

※表紙には表題の他にも、種々記してある。

「大坂二十二所巡り 昭和41年10月」

「音曲玉淵集」

※表紙に「日記 昭和32年9月起」と書いてあったものを消す。

「傀儡 道行抄書」

※ペン書き。紙質悪し。

「加賀掾物 初期」

「仮名手本忠臣蔵 昭和48年度～49年度50年度51年度52年度 龍谷

大学一般教育「文学(国文)」講義資料 角田一郎」

「近世の道行 1 仮名草子 2 古浄瑠璃」

※約2頁使用。

「古浄瑠璃「五郎正宗」付「吉屋道満大内鑑」の随求陀羅尼」

※メモ、コピーを挟む。

「古浄瑠璃 土佐節曲節調査 鈴鹿山大嶽丸」

※メモ類を挟む。

「古浄瑠璃正本目録(正本番号順)」

※メモ、龍谷大学の出席カード等を挟む。

「古浄瑠璃の演劇性の研究―寛文期1―」

「浄瑠璃」

※学生時代のノートか。演劇関係書に関する覚え書き。メモを挟む。

「浄るり 昭36の1」

※コピー「佐渡のろま人形見学御案内」、「釈迦牟尼世尊御一代

記 作者近松門左衛門 近松梅枝軒悉達太子難行苦行の段 作

詞 作曲 二世鶴澤清八」を挟む。「八幡古表神社 重要文化

財 細男舞(神相撲) 神事式」等を貼る。「近松 道行浄るり」

※「傾城吉岡染」「天神記」「穠静胎内拵」「相模入道千匹犬」

等の道行についてのメモ。

「昭和36の2 浄るり(百太夫関係資料) 自昭和36年12月 大分

県資料 戸伏氏「文楽と淡路人形」

※メモ等を挟む。

「浄瑠璃1 昭和36年 角田」

「浄瑠璃2 昭和36年7月 角田」

※メモ等を挟む。

「浄瑠璃 曲説解説 自平成元年4月」

※メモを挟む。

「浄瑠璃雑記」

「浄瑠璃備要 類別索引1 浄瑠璃総論 自1 至999」

※数頁使用。表紙右上に「総論0001・0999」と記す。

「浄瑠璃備要 類別索引2 作品 及び同刊本 自1000・19

99 至 作2000・作2999(作をつける)」

※表紙右上に「二、作品1000・2999」と記す。

「浄瑠璃備要 類別索引3 作者・研究家 自2000 至299

9(作をつけた番号は作品)」

※表紙右上に「三、作者・研究家 2000・2999」と記す。表紙の文字に訂正を施す。約3頁使用。

「浄瑠璃備要 類別索引4 太夫 自3000 至3999」

※表紙右上に「四、太夫 3000・3999」と記す。

「浄瑠璃備要 類別索引 作品 ノート コピー 写真 自1000

至1878

「浄瑠璃備要 類別索引5 人形 附遣ひ方・舞台 人形遣 附

人形演出 自4000 至4999」

※表紙右上に「5 人形・舞台 4000・4999」と記す。

「浄瑠璃備要 類別索引6 三味線 三味線弾 自5000 至5999」

※表紙右上に「六、三味線5000・5999」と記す。約1頁使用。

「浄瑠璃備要 類別索引7 語り方 自6000 至6999」

※表紙右上に「語り 6000・6999」と記す。  
「浄瑠璃備要 類別索引8 1、座・興行 附制令 2、流派・系図 自7000 至7999」

※表紙右上に「八、座・流派 7000・7999」と記す。  
「浄瑠璃備要 類別索引9 図録 自8000 至8999」

※表紙右上に「九、図録 8000・8999」と記す。「図録」の文字の下に「番付 絵づくし 絵画」と書き加える。約2頁使用。浄瑠璃本挿絵の透き写しと思われるものを挟む。

「浄瑠璃備要 類別索引10 雑 自9000 至9999」

※表紙右上に「十 雑 9000・9999」と記す。  
「浄瑠璃備要 類別索引11 参考・研究書誌 自10000」

※表紙右上に「十一、研究書誌 10000・」と記す。  
「浄瑠璃備要 類別索引12 定期刊行物 自20000」

※メモを挟む。  
「浄瑠璃道行2」  
※近松、紀海音、土佐少掾等の道行について。メモを挟む。

「浄瑠璃道行3 平成7年7月 巻末 備考」  
※近松作品の道行について。

「浄瑠璃道行4 平成7・8・5」

※近松作品の道行について。

「浄瑠璃道行5 平成7年8・24」

※近松、加賀掾、角太夫、紀海音、土佐少掾等の道行について。メモを挟む。

「浄瑠璃道行の研究6 近松の部 第1章〜第4章 修正原稿用第5章 道行場の構成」

※メモ等を挟む。

「浄瑠璃道行7 平成8年1月16日」

※菅専助、加賀掾の道行について。

「浄瑠璃道行の研究 浄瑠璃道行の文学・音楽・舞踊・カラクリ（演技・装置・演出）」

※メモ類を挟む。

「せつきやうかるかや 昭和58年4月 角田」

※メモを挟む。

「説経節正本目録」

※メモを挟む。

「段物集目録」

※約5頁使用。

「近松 鐘の権三重帷子 語釈 昭和8年2月」

※メモを挟む。

「近松浄瑠璃 道行1 角田」

※メモ等を挟む。

「道頓堀劇場場所所在史考説―佐古慶三―道頓堀槽名代所在考」による追考― 角田一郎 平成8（1996）年起 資料書目第1冊」

「道頓堀劇場場所所在史考説―佐古慶三―道頓堀槽名代所在考」に



よる追考― 角田一郎 平成8年(1996年)起 資料書目第2冊

「人形劇成立に関する研究 会計簿」

※約3頁使用。

「人形浄瑠璃史」

※約2頁使用。

「人形のかしら 大江己之助氏教示 起昭和50年4月 至6月5日

於鳴門市 大江氏邸1 角田」

「人形のかしら 大江己之助氏教示 起昭和50年6月5日 至10月

23日 於鳴門市 大江氏邸2 角田」

※メモ「阿波の人形座」他を貼る。

「かしら 大江己之助氏教示 自昭和50年10月29日 至昭和51年1

月22日終 於鳴門市 大江氏邸3」

※メモを貼る。

「人形の基本型研究1 吉永氏ノート1 角田写」

※冒頭に「目次」あり。角田先生の字で「吉永氏ノート」にはな

い。今仮に置く」とあり。

「人形の基本型研究2 吉永氏ノート1 角田写」

※冒頭に「目次」あり。

「人形の基本型研究3 吉永氏ノート2 角田写」

※冒頭に「目次」あり。

「人間国宝竹本津大夫師芸話 研究会記録1 起昭和52年5月

至昭和53年8月21日 「一谷嫩軍記」三の切、熊谷陣屋の段 帝京

大学文学部 角田一郎」

※新聞を貼る。

「人間国宝竹本津大夫師芸話 研究会記録2 自昭和53年9月22日

至昭和54年9月20日 「一谷嫩軍記」三の切、熊谷陣屋の段 「菅

原伝授手習鑑」四の切、寺子屋の段 「絵本太功記」、尼崎の段

帝京大学文学部 角田一郎」

「人間国宝竹本津大夫師芸話 研究会記録3 自昭和54年11月25日

至昭和55年6月14日 「絵本太功記」十段目、尼崎の段 帝京大

学文学部 角田一郎」

「人間国宝竹本津大夫師芸話 研究会記録4 昭和55年7月19日

(8月56年5月) 至昭和57年6月19日 「絵本太功記」十段目

尼崎の段(続) 「義経千本桜」三段目切 鮮屋の段 帝京大学文

学部 角田一郎」

「竹本津大夫芸話5 自昭和57年7月 角田」

「人間国宝竹本津大夫芸話6 自昭和59年3月 角田」

「津大夫芸話7 自昭和60年8月 角田」

「平治物語 平家物語 太平記 道行 余説1」

※コピーや原稿下書きの一部と思われるものを挟む。ノート表

紙には、表題の他にも細かい字で種々記してある。

「道行資料カード簿 ○表抄書・カード 番号簿 ○裏抄書袋 名

称 番号簿」

「道行文学 昭48年6月24日起」

※道行、謡曲に関してのメモ。

「八百屋お七 昭和38・3・16 角田」

※約3頁使用。

「謡曲道行 観阿弥清次 世阿弥元清 舞曲道行 御伽草子道行

室町歌謡閑吟集 余説2」

※メモ等を挟む。

「若月保治著 古浄瑠璃の新研究 慶長寛文篇 要抄 第1冊第2篇 寛永承応期の浄瑠璃」

「若月保治著 古浄瑠璃の新研究 慶長寛文篇 抄記 第2冊」

「若水千歳狐(写真)絵尽し 伊藤出羽掾 手妻からくり つのだ」

※ノートに紙焼き写真を貼り、翻字を施す。

「(題名不明)」

※金平浄瑠璃、古浄瑠璃その他について。昭和35年頃か。メモ

「論文改修要項」等を挟む。

## 歌舞伎に関するもの

「歌舞伎備要 A作品 曲名目録」

※表紙右上に「歌舞伎 A作品」とあり。2頁使用。

「歌舞伎備要 B作者 俳優 其他関係人物之部 目録」

※表紙右上に「歌舞伎 人」とあり。メモを挟む。約1頁使用。

「歌舞伎備要 C研究書目 研究論文 同項目 目録」

※表紙右上に「歌舞伎 研究書名」とあり。約2頁使用。

「歌舞伎音楽略史 乾坤 小中村清矩著 鑓の権三重帷子」

※浄瑠璃「鑓の権三」を含む。メモを挟む。

「舞台の道具メモ 歌舞伎1 宝永・正徳・享保・元文・寛保」

※メモを挟む。

「舞台の道具 歌舞伎2」

「文語入門1 角田」

※歌舞伎図か絵画の写しのような絵が描かれている。

## 謡曲に関するもの

「能楽 演出控 自平成元年3月21日」  
※1頁使用。

## 地方芸能、調査に関するもの

「阿波浄瑠璃調査 昭和49年5月起 伊那谷調査 昭和50年4月

13、14日 徳島文理大学 角田一郎」

「諸国の人形芝居」

「農村舞台 神戸市 自昭和38年3月 角田」

「播州歌舞伎 起昭和38・7・22」

※葉書、自筆メモ、資料、コピー、謄写版のプリント、写真を  
付す。

「兵庫県舞台 昭和37年(1962) 角田」

※葉書、書簡、新聞記事等を挟む。

「舞台調査 昭和43年11月 佐渡 伊奈 栃木県 神奈川県

[Tsunoda]

※メモを挟む。「兵庫県舞台 昭和37年(1962) 角田」

「三重県志摩郡阿児町 安乗舞台調査 昭和49年2月26日～9月30

日」

「民俗芸能」

※昭和39年(1962)頃か。メモを挟む。

## 日本文学に関するもの

「韻律研究 自昭和22年2月」

「片山芳□先生 漢詩講義第1冊 宋元明清四朝七言絶句抄」

※□は判読不能。

〔現代名家短歌抄〕

※木下利玄についてのメモを挟む。

〔国文学備忘 昭和15年3月 角田〕

〔作品研究 歌謡の部〕

※メモを挟む。約1頁使用。

〔秀華集〕

〔春鳥集 蒲原有明〕

※ノート表紙を絵の具で彩色する。詩集の写し。

〔新万葉集抄 1 巻1〕

〔高野辰之講師述 日本演劇史 東京帝国大講義〕

※ノートに「昭和9年度」とあり。

〔南総里見八犬伝〕

※メモ等を挟む。

〔「日本戯曲技巧論」中村吉蔵著〕

※約1頁使用。

〔日本文学の歴史 昭和25年4月9日起〕

〔俳諧 芭蕉 奥の細道 雑詠〕

※「昭和15年12月起」とあり。

〔芭蕉 昭和39・4〕

〔文学概論抄 早稲田大学教授文学博士 本間久雄著 第1冊〕

※メモを挟む。

〔邦楽〕

※メモ、コピーを挟む。

〔三好達治集 第2冊 春の岬 続〕

〔名句集〕

※表紙に「井泉名句集」と書き、後より「井泉」の文字に上から線を引いて消す。

〔山口剛教授 江戸小説研究〕

※謄写版「開卷一笑 坤 媚・妓賦」西湖佳話古今遺蹟卷十五を挟む。

外国文学に関するもの

〔NHK Initation a la Langue Francaise ITsumoda 1963・8〕

※フランス語単語帳。

〔沙翁研究〕

〔単語解〕

※切り取った跡あり。平成2年(1990)頃に筆記されたものか。

〔フランス語の書誌〕

※約3頁使用。

〔VOYAGES EN D、AUTRES MONDES〕

※フランス語単語帳。

〔魅惑 ポオル・ヴァレリイ 菱山修三訳 第1冊 昭和21年10月

写〕

〔魅惑 ポオル・ヴァレリイ 菱山修三訳 第2冊 昭和21年11月

写〕

研究会関係

〔演劇研究会 昭和39・8 角田〕

〔演劇研究会〕

※昭和39年(1964)のものを含む。

「演劇研究会 第1冊 自昭和49年5月 角田」

※発表資料、葉書、コピー、メモを挟む。

「演劇研究会 第2冊 自昭和50年6月 角田」

※発表資料、葉書、コピー、メモを挟む。

「演劇研究会 第3冊 自昭和51年6月19日 角田」

※発表資料、葉書、コピー、メモを挟む。

「未刊浄瑠璃芸論集2 演劇研究会」

※昭和36年頃のものか。「演劇研究会名簿」昭和36年2月、「演劇研究会よりのお知らせ」昭和36年3月、「総合収支一覧表」

昭和34年7月～46年2月 等を挟む。

〔無題〕

※演劇研究会関係カ。

「学会記録」

「近松の会」

※昭和35年4月～昭和36年4月カ。謄写版資料、「曾根崎心中」年忌上演年表（未定稿）、「曾根崎心中」「堀川波鼓」「重井筒」等を挟む。

「東洋音楽学会 昭和50年11月起 角田」

「日本古典文学大系読書会 第1冊 昭和48年起 角田一郎」

※読者カード、コピー、メモを挟む。「例会記録 読書会会員名簿」を貼る。

「日本古典文学大系読書会 第2冊 昭和49年9月起 角田一郎」

※コピー、メモを挟む。

「読書会 日本古典文学大系 第3冊」

※日本古典文学大系読書会の第3冊目と思われる。

### 講義に関するもの

「一谷嫩軍記」

※講義のためのものカ。

「近世文学 帝京大学文学部国文学科 昭和51年度講義 テキスト

暉峻その他「近世文学」 金曜第1時9・00～10・30 321教室

621 角田」

「近世文学 義経千本桜 昭和56～60年度 景山正隆編「義経千本

桜」昭和61年度 祐田善雄著「文楽浄瑠璃集 自昭和56年度～昭和58年度 金1241 9・30～10・30 昭和59年度～昭和60年度 木3

1241 12・50～昭和61年度 木3 1053 12・50～2・20」

※コピーやメモを挟む。

「近世文学研究 浄瑠璃の演劇性 寛文期を中心に 大学院前期

(博士課程) 昭和 年度 角田」

※表紙に書いた「昭和59年度」の数字「59」を消す。中身は空白。

「帝京大学大学院 大学研究科 国文学 近世文学研究 自昭和54

年度～59年度60年度61年度 角田」

※履修カード等を貼る。

「国文学概論 昭和42年度3年次クラス 角田」

※メモを挟む。

「昭和41年度 国文学史 中世・近世 2中世 角田」

「昭和41年度 国文学史 中世・近世 3中世 角田」

※表紙に「挿話集 昭和41・7」、「近世」と書いた文字を上か

ら消す。

〔昭和41年度 国文学史 中世・近世4 近世文学史 角田〕

〔国文学史 昭和42年度1 角田〕

※約2頁使用。

〔俊寛〕

※コピーを挟む。新聞切抜き等を貼る。講義ノートか。

〔京都女子大学 浄瑠璃作品論 下 昭和50年度〕

※出席簿、「曾根崎心中」関連資料を挟む。

〔昭和41年度 浄瑠璃史 角田〕

〔昭和42年度 浄瑠璃史〕

※コピー、メモを挟む。

〔資料控え 浄瑠璃史概説 第3編 近松浄瑠璃時代 昭和56年度 大学院 帝京大学 角田一郎〕

※履修カードを貼る。メモ等を挟む。

〔浄るりノート 昭和46年度1 竜谷大学 角田〕

※メモを挟む。

〔浄るりノート 昭和46～47年度2 竜谷大学 角田〕

※ノートを切り取った箇所あり。

〔ゼミ近世 昭和59 昭60俊寛 昭61「文楽浄瑠璃」千本桜〕

※メモ等を挟む。

〔卒業論文ゼミナール 昭和51年度 帝京大学国文学科 角田〕

※試験の問題用紙、卒業論文指導カード等を挟む。

〔日本演劇史 上代↓浄瑠璃 松蔭女子短大講義 昭和37年度 昭和38年度 角田一郎〕

※配布したと思われる謄写版の資料を付す。

〔日本演劇史 歌舞伎2 松蔭短大講義〕

〔日本文学作品講義 俳諧 芭蕉を中心に 徳島文理大学短期大学 昭和49年度 角田〕

〔日本文学史 付芸能史 徳島文理大学短期大学 昭和49年度 前期 角田〕

※「日本文学史 昭和50年度 徳島文理大学二年 京都女子大学二年」等のメモを挟む。

〔日本文学史 徳島文理大学短期大学 昭和50年度 前期 角田〕

※約2頁使用。

〔俳諧 帝京大学文学部国文学科 昭和51年度国文学演習 テキスト1 松尾靖秋「近世俳人」2「冬の日」連句、原本コピー 木曜第3時12:40～2:10 621教室 角田〕

〔冥途の飛脚 帝京大学文学部国文学科 昭和41年度「劇文学」テキスト1 諏訪・中村「校註 冥途の飛脚・女殺油地獄」2「冥途の飛脚」原本コピー 木曜第2時10:40～12:10 932 角田〕

〔謡曲・狂言〕

※中に「昭40年 2年必修演習」とあり。広島女子短期大学の講義ノート。

〔「総合科研 出納控帳」

※コピー、メモ等を挟む。領収書等を貼る。

〔第2年次 総合科研日記1 自昭和43年7月1日 至昭和43年9月23日〕

〔「総合科研 出納控帳」

※コピー、メモ等を挟む。領収書等を貼る。

〔第2年次 総合科研日記1 自昭和43年7月1日 至昭和43年9月23日〕

〔「総合科研 出納控帳」

※コピー、メモ等を挟む。領収書等を貼る。

〔第2年次 総合科研日記1 自昭和43年7月1日 至昭和43年9月23日〕

〔「総合科研 出納控帳」

※コピー、メモ等を挟む。領収書等を貼る。

〔第2年次 総合科研日記1 自昭和43年7月1日 至昭和43年9月23日〕

〔「総合科研 出納控帳」

※コピー、メモ等を挟む。領収書等を貼る。

〔第2年次 総合科研日記1 自昭和43年7月1日 至昭和43年9月23日〕

※メモ等を付す。

「昭和42年 総合科研日記2 角田」

※領収書、葉書、メモ等を貼る。

「昭和42年度 総合科研日記3 自昭和42年11月29日 至昭和43年2月21日 角田」

※メモ、領収書等を付す。

「昭和42年度 総合科研日記4 自昭和43年2月22日 至 角田」

※メモ、領収書を貼る。書簡を挟む。

「第2年次 総合科研日記2 自昭和43年9月24日」

※メモを貼る。領収書をはさむ。

「第2年次会計簿 総合科研」

※領収書、メモ等を付す。

「成果報告書刊行関係 自昭和44年4月1日」

※新聞切抜、コピー等を挟む。領収書を貼る。

「文部省科研 昭和56年度 人形舞台画証史の総合的研究 代表  
大阪大学助教授 信多純一氏 角田」

※葉書、メモ等を貼る。

## 日記・雑記など

「日記抄」

※昭和6年のもの。日記を切り貼りしてある。

「昭和10年度」

※創作歌、覚え書などカ。

「晨朝録」

※昭和15年12月―23年頃。

「詩稿 昭和21年9月起」

※表紙に「昭和十二年」とある中の「十二」を消し「二十一」とする。

「雑考 備要 昭和35年」

※表紙に「東」と書き、上から消した跡あり。約7頁使用。

「計画・予定 覚え書 昭39・4」

※約1頁使用。

「諸控 研究関係 自昭和45年4月 角田」

※歌舞伎、人形浄瑠璃、地方人形芝居について。

「昭和47年4月～5月 1 長浜の山車」

※葉書、美術館の展覧資料等を挟む。

「昭和47年6月 2 角田」

※メモを挟む。

「昭和48年 角田」

※名刺、メモを貼る。

「雑 昭和49年4月 角田」

「雑 昭和49年11月」

※メモを挟む。

「雑記 昭和51年3月6日 角田一郎」

※葉書、学会資料等を挟む。

「雑記帳 昭和51年7月起 角田一郎」

※昭和51年7月～10月頃の記録カ。

「雑記帳 自昭和51年11月 角田」

※メモ等を挟む。昭和52年7月頃までの記録カ。

- 「雑記帳 自昭和52年8月24日 角田 主として知多半島」  
※メモ等を挟む。名刺、葉書等を貼る。昭和53年頃までの記録カ。
- 「ノート 知多半島、大垣、静岡 昭和53年5月14日起 帝京大学 角田一郎」  
※名刺等を貼る。
- 「ノート 自昭和53年9月 至昭和54年 目次 角田」  
※「文楽若手発表会」チラシ、「第5期歌舞伎俳優研修生 第3回竹本講習生 第2回試演会」チラシ等を貼る。
- 「書留め 昭和54年5月 角田」  
※葉書等を挟む。
- 「覚え書き 昭和54年7月8月 角田」  
※館内閲覧票等を挟む。
- 「雑記 昭和55年1月 角田」  
※「井上播磨掾の曲節 倉田喜弘」1枚（近松研究所紀要第26号）「角田一郎先生旧蔵資料 仮目録三」に既出）を挟む。  
義太夫研究会、その他のメモ。
- 「覚え書き 昭和55年度 自昭和55年5月 角田」  
※葉書等を挟む。
- 「覚え書き 昭和56年 自6月 至12月 角田」  
※葉書等を貼る。
- 「覚え書き 乙1 自昭和56年7月—12月 「義太夫年表近世編」の部 1 享保9年までの覚え書き 角田」  
「覚え書き 乙2 自昭和57年1月 「義太夫年表」近世編の部 享保10年より 角田」
- 「覚え書き 乙3 自昭和57年6月28日 「義太夫年表」書評用近世編の部」  
「覚え書き 甲1 自昭和57年（1982）1月 帝京大学文学部 角田」  
※メモ、新聞切抜き等を貼る。
- 「覚え書き 自昭和57年4月 至昭和58年 帝京大学文学部 角田一郎」  
※メモ等を貼る。各地の図書館、資料館へ行った記録等。
- 「ノート 自昭和57年9月 至昭和58年5月 帝京大学 角田」  
※メモ等を挟む。
- 「覚え書き 昭和58年 帝京大学 角田」  
※メモ、葉書等を貼る。目次あり。
- 「自昭和58年7月 至昭和59年3月 角田」  
「自昭和59年自正月 帝京大学 角田」  
※「自昭和58年10月11日」の年月日を消し、上から「59年自正月」と訂正。メモ、葉書等を貼る。
- 「覚え書き 自昭和59年5月 音数律関係が多い 帝京大学 角田」  
※メモ「日本詩歌・歌謡の音数律研究史参考文献の一部分」を挟む。
- 「覚え書き 自昭和59年7月11日 至昭和59年10月 帝京大学 角田」  
※メモ等を挟む。
- 「覚え書き 自昭和59年10月 至昭和60年3月 帝京大学 角田」  
※メモを貼る。
- 「覚え書き 自昭和60年7月 至 同11月8日止 帝京大学 角田」

※メモ等を挟む。葉書、新聞切抜き、書簡等を貼る。

「覚え書き 自昭和60年4月 帝京大学 角田一郎」

※メモ等を挟む。新聞を貼る。

「覚え書き 自昭和60年11月9日 角田」

※メモ、新聞等を挟む。

「NOTE 自昭和61年4月 至昭和62年1月」

※メモ等を挟む。

「のおと 自昭和62年(1987) 2月 至同7月 簗簗 五郎正宗 刀剣 角田」

※自筆メモ、カード等を挟む。

「覚え書き 昭和62年(1987) 7月起 同年12月13日迄 覚え書き 刀剣 国花万葉記 岐阜県立図書館 鯛屋貞柳」

「覚え書き 昭和62年(1987) 12月14日起 昭和63年(1988) 6月17日迄 覚え書き・和泉史・薩摩浄雲、外記(和田修)「薩摩外記研究」

添付)・歴参考書・土佐節定家抄 角田」

※抜刷、メモ等を挟む。

「覚え書き 自昭和63年(1988) 6月18日 至平成元年(1989) 7月19日 1・7・3 広島文教女子大 薩摩外記研究(和田修) 市川団十郎(西山松之助) 謡曲柏木(天理) 八瀬、大原(京都総合資料館)

当麻寺文献(中之島) 広島文教女子大浄るり本 角田」

「ノート 自平成1年(1989) 12月24日 至平成2年(1990) 4月24日 絵尽 凧 田尻町吉見の山 日本刀の科学的研究」

※メモ、コピー等を挟む。名刺を貼る。

「ノート 自平成2年(1990) 4月25日 至7月30日 刀剣(中之島)

大村加卜(中之島) 奴師勞之(やっこだこ) 自宅) 邦舞 芝居

番付(中之島) 凧(国会図書館) 芝居番付(国会図書館) 新う

すゆき物語(演博 大阪市立中央図) 曾根崎心中序文(序文) 正

本近松全集別巻(自宅) 台湾大学浄るり本奥付(自宅) 鳥居フミ

子氏調査目録 外題年鑑書誌(自宅、国会、大阪市立) 道行の形

式と歴史の展開(井野辺氏論文) 角田」

※「大阪中之島図書館利用案内」、メモ等を挟む。

「ノート 自平成元年(1989) 7月20日 至平成元年12月23日 平成

元年7月22日当麻寺調査 23日元興寺 11月9日法政大学能研(記

録後添) 11月8日八瀬調査 12・10フシの段落 角田」

※メモ、コピー等を挟む。新聞切抜き、名刺、葉書等を貼る。

「ノート 自平成2年1990年8月14日 至平成3年1991年」

「ノートA 自平成3年6月 道中評判敵討 土佐節の口三味線 角田」

※研究会記録、読書メモなどもあり。

「雑記ノート8 自平成3年9月〜平成4年6月28日 助六心中論

文題目 続狂言(諏訪氏) 心中狂言(松崎仁) しのだづま、簗簗

抄(自宅、中之島) 歌垣、影媛 阿騎乃大野、万葉集古義 曲節

関係の書(大阪市立 中之島) 角田」

「雑記 自平成4年6月29日 至平成5年4月下旬 角田」

「雑記 自平成5年(1993) 4月下旬 至年末 角田」

「雑記帳 自平成6年1月1994年 角田」

「雑記帳 平成8年(1996年) 5月起」

※近世演劇に関するもの。

その他



「日本女子高等学院主催第10回 国文学夏期講習会聴講録 於東京・神宮外苑・日本青年館 昭和14年7月27日―8月1日 福山誠之館中学校 角田一郎」

「基督教 新約全書解題抄 高木太郎著 NOONE 昭和廿一年六月 Ichiro [Sumoda]

※表紙に「1929・3・29」とあるのを消し、「昭和廿一年六月」と書く。

「高校国語教科書 昭和29年度」

※約4頁使用。

「要調査書目 起1958年2月」

※新聞切抜き、電報、メモ等を挟む。

「東洋音楽 第1冊」

※表紙に鉛筆書きで「音楽」とある上から「東洋音楽 第1冊」とする。鉛筆書きで「自 昭和33年7月30日 I・T」とあり。

「昭和37の2 石清水八幡宮文書 付 西宮案内者 広□両宮記」

※□は判読不能。

「日本民俗学大系 昭和39・7・21」

※約2頁使用。

「芸能史研究会編集／法政大学出版局刊 日本芸能史 全7巻 第1巻 原始・古代 四 都鄙の芸能 200字詰200枚 原稿締切 昭和52年2月 刊行予定 昭和52年10月 執筆参考ノート1 昭和51年6月起」

「日本の時刻制度 橋本万平著 付参考文献 暦と時の事典 (五十音別小見出し) 内田正男著 雄山閣 昭和61年5月5日刊 暦百科事典(事項別、大見出し) 暦の会編 新人物往来社 昭和61

年4月25日 日本暦日原典 内田正男編著 雄山閣出版 昭和50年」

「受贈抜刷 目録ノート1 △印 学界報告資料 \*印抜出コピー」

「受贈抜刷 目録ノート2 角田 △印 学界報告資料 \*印抜出しコピー」

「声明 雅楽ノート」

※角田先生の文字で付箋に「曲節関係 二」と記す。

「早大 演劇博物館」

「年賀状宛先 米寿祝賀会御出席者名簿 地震見舞状貴名表 角田」

「論文出版関係 予約寄贈分」

「我が句帳」

※題名「我が句帖」の文字は印刷。「金欄録」(近松研究所紀要) 26、「角田先生旧蔵資料 仮目録3」(既出)を挟む。

「(題名不明)」

※自筆メモノート。

(客員研究員)